

# 有馬地区について

有馬は多摩丘陵に位置し、有馬川流域の低地部と、それを挟む高地から形成されている。有馬の歴史は古く、縄文時代の土器・石器などが鷺沼遺跡群から、炉穴群が東有馬の川戸原から発見されている。その後、平安時代初期頃に作られた火葬骨臓器の多くが後谷・台坂・入山から発掘されている。鎌倉時代になると、鎌倉と地方を結ぶ鎌倉道の整備が進められた。鎌倉街道中道支線が鷺沼から枳形山へ通じている。江戸時代から有馬は有馬・有間・在間などと表記された。明治22年(1889)に馬絹・土橋・野川・梶ヶ谷各村と合せて宮前(みやさき)村が成立した。その後、昭和13年(1938)に川崎市に合併され、昭和47年(1972)に川崎市が政令指定都市になり高津区が誕生した。さらに昭和57年(1982)になると人口の増加に伴い宮前区が分区された。



## ⑦ 有馬神明神社



有馬村の鎮守。明治43年(1910)に神明社2社と杉山神社が合祀された。50段余の石段はこれら3社のものを合わせて組み上げてある。前身の神明社の創建は文政6年(1823)以前と推定、祭祀は江戸時代より平村の白幡八幡大神の宮司により催行されている。社は天神山と呼ばれる小高い丘の上にあり、眺望がよい。本殿右側に稲荷神社、石段に通じる鳥居の右側に子育て蔵尊がある。

## ⑧ 城山

有馬川を見下ろす標高50mの高地にあり、有馬城と呼ばれていた。戦国時代、小田原北条氏に仕えた窪田氏が館を置いたところ。南裾からは湧水も見られ、瀬戸(せど)と言う屋号の家と地名が残る。「せど」は城の水源を意味する言葉であると言われる。都市開発前、城山の標高は現在より約20m高く、矢倉沢往還を展望できたという。

## ⑨ 下有馬不動堂

在間西明寺跡。本尊の不動明王を祀った堂の傍らに御嶽社がある。早春に深紅のヤブツバキも楽しめる。階段を下り左に入ると、清水の湧く小暗いところに石造の不動立像が祀られている。江戸時代には滝壺があり、水垢離場として信仰された。南方の梅林では、1~2月に紅白の冬至梅が一斉に花開く。

## ⑩ 長善寺

浄土真宗有間山長善寺と称す。本尊は阿弥陀如来。もとは浄土宗であったが、住職・安立の時に改宗した。創建年代は不明だが、400年以上の歴史があるという。昭和20年の火災で旧本堂を失い、現本堂は昭和49年の再建。墓地には西明寺跡から移された板碑が祀られ、植木供養塔もある。

## ポイント解説

(数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

### ① 大山街道

江戸の赤坂御門から大山を結ぶ道路で、全長70数kmに及ぶ。宮前区内の大山街道は、宮崎大塚から有馬の牛久保境までの間を通過する。都市開発が進み道路が消滅した区間もあるが、馬絹の小台坂、有馬の八幡坂周辺に街道の面影を残す。

### ④ 峯道・御嶽道・南の横大道

江戸時代からある尾根道で、中原街道の山崎から牛久保の大山街道を結ぶ。また、御嶽道としても利用されていて、御嶽講の信者が大森・羽田から小杉・山崎を経て峯道に入り、犬蔵・水沢・高石を経由し、奥多摩の御嶽山に向かった。

### ② 八幡坂



大山街道の急坂の一つである。湧水もあり、荷車での運搬に難儀した。坂の東方に名称の起源となった八幡祠があった。坂の中腹には、馬の医者である伯楽があり、坂の裾にはワラジ・菓子を売る出店があった。渡辺華山がこの店で荏田までの道程を尋ねている。

### ⑤ 有馬ふるさと公園

上の原台地に多摩丘陵の地形を生かして造成。園内にはシイ・カシなど自然林を残す。



### ⑥ 福王寺

臨濟宗寿栄山福王寺。準西国稲毛三十三所観音霊場第12番札所。本尊の十一面観音は午年に開帳。創建は天正・慶長(1573~1615)の頃。寺伝によれば室町時代に鎌倉に創建、享保16年(1731)当地に再興と伝える。境内にあった吾妻権現社は本堂内に移転。建武4年(1337)銘の板碑のほか、石段下には元禄4年(1691)銘の庚申塔、明治15年(1882)銘の地神塔、秩父・西国・坂東観音巡礼塔がある。



### ③ 阿弥陀堂(祠)



堂内に2体の石仏が祀られている。地藏尊には宝永元年(1704)の銘が刻まれている。貞亨時代、一帯で疫病が流行し子供が亡くなったので、その供養と子の成長を願い、屋号「植村」の妻が中心になり建立した。

### 参考文献

『新編武蔵風土記稿』 雄山閣  
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所所蔵  
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団  
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著  
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

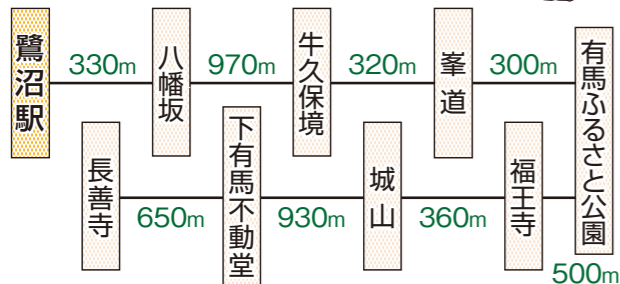
5

その

# 有馬

—有馬の丘と社寺巡り—

全長  
約4.5km



### インフォメーション: [鷺沼駅]へのアクセス

(電車) 東急田園都市線・急行、各駅停車をご利用ください。  
(バス) 「武蔵小杉駅」「新城駅前」「センター南駅」バス停などから[鷺沼駅]行きにお乗りください。

# 歴史ガイドまち歩き⑤ 有馬



### 地図の見かた


- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- - - 古道
- - - 旧村界
- - - 旧大字界
- 有馬村** 旧村名
- 大谷** 旧大字名
- 太田前** 旧字名
- 見どころ
- 矢上川** 河川名
- ♀ バス停
- WC トイレ

### 火葬骨蔵器

多摩丘陵では、火葬骨蔵器が数多く発掘されています。有馬入山出土の獣脚付骨蔵器は、三本の脚付きの珍しいもの。

また有馬後谷の骨蔵器は、周囲に19個の土師器杯を配しています。そのほか鉄板墓誌を伴って出土した野川南耕地の骨蔵器など、いずれも9世紀と推定され、橘樹郡衙(ぐんが)にかかわる人々が存在したものと推察されます。

現在は東京国立博物館に所蔵されています。



(提供)川崎市教育委員会

### 有馬に伝わる民話“影取谷”

大蛇が棲むという沼が有馬の峯道の北側にあった。峯道を通る人の影が沼に映ると大蛇に影を取られ大勢が亡くなったという。村の娘「おせん」が大蛇の犠牲になった後、村人は沼を埋めてしまった。ある夜、雷鳴が響き、影取谷から青い光が尾を引くように飛んで行った。その話も忘れられた頃、向こうの山の崖が崩れ白蛇の骨が出てきた。村人は水神様の使いだとし、丁寧に祀ったという。

### 谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。

